



夜間景観ガイドライン

夜も楽しさあふれる 福井のまちなか

～誰もが主役に！夜景リノベーションへの挑戦～



目次

はじめに	2
福井市の夜間景観づくりの目標	3
夜間景観ガイドラインの目的	4
第1章 魅力ある夜間景観をつくるために	
1-1. 福井市のまちづくりの方向性	5
1-2. 夜間景観の資源	7
1-3. エリア別夜間景観形成の考え方と 照明の演出手法の例	9
①城址・中央公園エリア	10
②養浩館・城址東側エリア	11
③大手エリア	13
④駅周辺エリア	14
⑤東公園エリア	15
⑥北の庄・中央1丁目エリア	16
⑦浜町エリア	17
⑧足羽川エリア	18
⑨足羽山・愛宕坂エリア	19
第2章 ケーススタディ	
2-1. 店舗のあるプロムナード	21
2-2. 緑陰のある街路・ポケットパーク	23
2-3. 商店街のあかり	25
2-4. 風情のある料亭街のあかり	27
2-5. 市民に愛される川沿いのあかり	29
第3章 あかりの基礎知識	
3-1. 照明器具の種類	31
3-2. 色温度	33
3-3. 鉛直面の明るさ感とは	33
3-4. 照明制御と省エネルギー	34
3-5. 照明設置の豆知識	34
3-6. 用語解説	34
第4章 魅力ある夜間景観づくりの進め方	35

はじめに

福井市では、豊かな自然と歴史・文化が調和し、日本の原風景を感じさせる「福井らしい景観」を大切にしています。市民が誇りを持ち、いつまでも住み続けたいと思えるまち、そして誰もが「住んでみたい」と感じるような“心地よい”景観の形成を目指し、『福井市景観基本計画』および『福井市景観計画』を策定しています。

これらの計画の中では、「魅力ある夜間景観の創出」が重要なテーマとして掲げられており、本ガイドラインは、行政、住民（建築主、地主なども含む）、民間事業者など、その地域に関係する全ての方が参考とできるよう、福井市が目指す夜の景観のあり方や、その方向性を共有するための指針として位置づけられるものです。

夜間景観ガイドライン改定の背景

平成20年7月、福井市では「夜間景観ガイドライン」を策定しました。これは、ライトアップやイルミネーションなどの自主的な取組が増えてきたこと、夜間の外出機会が広がるなどライフスタイルが変化してきたこと、そしてJR福井駅の整備や中心市街地の再開発といった都市の動きが背景にありました。

それから15年以上が経ち、LEDの普及など照明技術は大きく進展しました。計画的に進められてきた都市開発により福井のまちは大きく姿を変え、新幹線の開業後は、県内外から多くの人々が訪れるようになり、まちなかではこれまでにないにぎわいが見られるようになっています。

こうした中で、まちなかの魅力をさらに高める開業効果を一過性のものとせず持続させていくためには、まちなかで時間を過ごす人々の満足度を向上させ、都市景観づくりがこれまで以上に求められます。特に、夜間における景観の質は「居心地がよい」と感じるような満足度や滞在時間に大きく影響し、にぎわいを育み続ける鍵となります。

快適に感じられるような夜間景観の実現には、行政だけでなく、多様な主体の協力が不可欠です。これまでのガイドラインは、策定から時間が経過したこともあり、照明技術の進展やまちなかの変化を反映できていないほか、行政側の視点に比重が置かれていた側面もありました。そこで今回、福井の夜間景観をより魅力的なものに育てていくため、多くの人々が利用しやすいものとなるよう「福井市夜間景観ガイドライン」を見直すこととしました。

STATEMENT

夜も楽しさあふれる 福井のまちなか

～誰もが主役に！夜景リノベーションへの挑戦～

福井市の夜間景観づくりの目標

福井のまちなかは、県都福井の玄関口としての役割を担い、交通の要所であると同時に、商業・行政・業務などの都市機能に加え、歴史文化遺産や自然環境も徒歩圏内に集まる、非常に魅力的なエリアです。これまで、県や市、経済団体など多様な主体が連携しながら、「県都ブランドデザイン」に代表されるまちの将来像や長期的なビジョンを描いてきました。その中で、人々の多様な活動がより充実し、歴史や自然はもとより、まちなかの多様な魅力が共に輝き、それらを歩いて楽しめるまちづくりを目指しています。

夜間景観の充実は、ベースとなる安全・安心な環境形成を目指すものであると共に印象的な景観の点在を促進するもので、それらをつなぎあわせることによってさらなる回遊性の向上につながると考えます。福井市では、昼とは異なる魅力を持つ夜のまちを実現するにあたり、「夜も楽しさあふれる 福井のまちなか」を新たな夜間景観づくりの目標としました。この目標には、福井らしさを感じられる美しく居心地の良い夜間景観づくりを、公共と民間の両方の取組によって実現し、夜間にも市民や来街者がまちを楽しむことができ、誇りと豊かさを誰もが感じるまちなかを目指そうという思いが込められています。

※福井のまちなか：P5,P6の地図に示す9つの歩いて楽しめるエリアを想定しています。

夜間景観ガイドラインの目的

福井らしさを活かした魅力的で居心地の良い夜間景観のあり方を示す

魅力的で居心地の良い空間を形成するためには福井のまちなか固有の自然や歴史資源などといった景観資源を活用するとともに、公共空間はもとより公共施設や店舗、住宅など、まち全体で調和のとれたあかりをデザインすることが重要です。本ガイドラインは、まちなかのエリアごとの特色を活かした照明手法やケーススタディを示し、光の整備・演出のあり方を示すことを目的とします。



城跡のライトアップを中心にまちなかのあかりの整備によって回遊性を図っている（鳥取市）

誰もが参加し、まちを楽しむためのあかりの活用方法を示す

夜も楽しめるまちなかには、絵になる夜景や居心地の良いあかりの点在など、場所の魅力や人々の活動を感じさせる夜間景観が形成されます。

本ガイドラインでは、市民が過ごしたくなる公共空間づくりや居心地の良い民間商業エリアづくりに有効な手法を紹介し、公共の照明整備にとどまらず市民も夜間景観づくりに参加し、ともに福井のまちなかを磨き上げていく未来のイメージを示すことを目的とします。

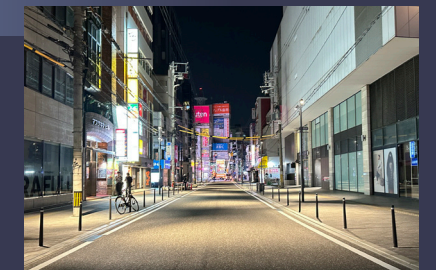


面的な民間修景建物のライトアップによって街の夜間景観づくりを行っている平戸城下旧町地区（平戸市）

安心して快適に過ごせる、夜間景観のあり方を示す

夜間景観の整備・演出は、福井のまちなかを対外的にアピールして人を集めることだけが目的ではなく、光を適正に配置・調整し、夜間も安全で快適に暮らせる環境を創出することが基礎となります。

本ガイドラインは、安全・安心で、楽しみながら歩ける、暗がりの無い歩行者空間を形成するとともに、地域全体の夜間の快適性を高めるための光の創出のあり方を示すことを目的とします。

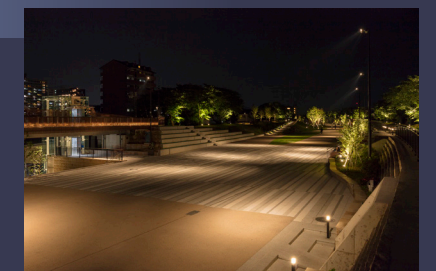


スポットライト型街路灯によりまぶしさを抑えたなんさん通り（大阪市）

持続可能でやさしいあかりのあり方を示す

魅力ある夜間景観とは、ただ明るく照らせばいいという訳ではありません。不快なまぶしさを抑え、色温度に配慮した的確な照明計画と時間による調光制御など、省エネや環境への配慮も重要です。

本ガイドラインは、光害の防止や昼間の景観への配慮、自然環境への負荷の軽減を図るため、環境にやさしくて適切なあかりのあり方を示すことを目的としています。



全域を調光制御することで、深夜のエネルギー消費を抑えている草津川跡地公園（草津市）